

大会名 Competition	第39回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-113	Year Month Day Time 2026 年 5 月 5 日 14 : 15
場所 Place	NODENアリーナ (能代総合体育館)

発行：能代市バスケットボール協会
http://ncup.snowland.net



チームA		チームB
開志国際	(38 1st 22)	能代科技
127	(25 2nd 19)	83
○	(33 3rd 13)	●
	(31 4th 29)	
	0 T	

主審:Crew chief
伊藤 睦哲 岩手
副審:Umpire
新山 亮祐 青森
伊勢 友春 秋田
テーブルオフィシャル:Table officials
能代松陽高校 男子

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	池田 楓真	cap	0	0	0	0	1	0	×	松田 来翔	cap	6	2	0	0	3
5	×	高橋 歩路		2	0	1	0	0	4	/	金 隼輝		6	1	1	1	2
6	/	大瀧 稜真		16	0	7	2	3	8	/	下田 瑛斗		4	0	1	2	1
7	/	北村 拓己		9	2	1	1	1	9	/	黒澤 啓太		18	6	0	0	0
8	/	小川 凜太郎		2	0	1	0	1	12	/	大嶋 遥佳		7	1	2	0	1
9	/	ジョーンズ 堅太		11	1	3	2	2	13	×	信太 虹輝		24	6	2	2	3
10	/	佐藤 海音		3	1	0	0	0	15	×	岸部 瑛大		9	1	2	2	2
11	/	佐藤 大征		5	1	0	2	1	17	×	熊澤 隼		3	1	0	0	2
12	×	恒岡 ケイマン		10	0	5	0	0	18	×	永井 瑛都		1	0	0	1	1
13	×	イツ ケットラックチドゥ		15	3	3	0	1	22	/	鈴木 秀哉		0	0	0	0	0
14	×	AJAK ALUONG AJAK ALUONG		31	0	15	1	1	25	/	大倉 悠暉		0	0	0	0	1
15	/	村井 衛		2	0	1	0	0	32	/	阿部 颯唯		0	0	0	0	2
16	/	塩谷 空牙		2	0	1	0	2	34	/	畠山 蒼馬		0	0	0	0	1
17	/	岩朝 ローマ		8	2	1	0	0	44	/	工藤 祥		3	1	0	0	0
18	/	堀内 遥		11	3	1	0	0	64	/	倉持 駿成		2	0	0	2	0
コーチ 富樫 英樹 0 アーチ 津野 祐樹 0 合計 127 13 40 8 13									コーチ 長谷川 聡 0 アーチ 遠田 貴大 0 合計 83 19 8 10 19								

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P率 イントシュート 2P:2P率 イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking [Team]

1	31	24.41%	AJAK ALUONG AJAK ALUONG
2	16	12.60%	大瀧 稜真
3	15	11.81%	イツ ケットラックチドゥ

1	24	28.92%	信太 虹輝
2	18	21.69%	黒澤 啓太
3	9	10.84%	岸部 瑛大

Score ranking [Game]

1	31	AJAK ALUONG AJAK ALUONG	開志国際	2	24	信太 虹輝	能代科技	3	18	黒澤 啓太	能代科技
---	----	-------------------------	------	---	----	-------	------	---	----	-------	------

既に今大会の優勝を決めている王者開志国際に新生成代科技がどこまで食らいついていけるのか楽しみな一戦。

1Q、圧倒的な身長差を早い展開で崩していこうとする能代科技であったが、相手は技術でも格上の開志国際。軽々とパスを通されて得点を許す。それでも能代科技は#13信太がこのQだけで4本の3Pを沈めるなど孤軍奮闘して食らいつこうとする。しかし華麗なパス回しから次々とシュートを決めていく開志国際に次第に離されていく。38-22で1Q終了。

2Q、ようやく開志国際の高さに慣れ始めた能代科技はオフェンスリバウンドからチャンスを繋げ、#15岸部、#13信太のジャンプショットで追い上げを図る。開志国際も#18堀内の3Pなど、50%を超えるシュート成功率で着実に得点を重ねる。能代科技#34畠山が開志国際#15村井とゴール下を張り合う姿は1年生とは思えぬ活躍であった。このQは能代科技が善戦し、63-41で前半終了。

3Q、前半までどうって変わって落ち着いた展開でスタートする。こうなると能代科技は高さで勝る開志国際を止めることが出来なくなり、#14アジャックにゴール下を支配される。その後も開志国際#6大瀧の連続バスケットカウントなど勢いついた開志国際を止められず96-54で3Q終了。

4Q、双方メンバーを大きく入れ替えてスタート。既に勝敗は決まってしまったが、互いに次のステップに繋げようと走り続ける。開志国際#9ジョーンズ、能代科技#12大嶋の活躍が印象的であった。127-83で開志国際が全勝優勝で花を飾った。